

芦屋大学論叢 第74号
(令和3年3月22日)抜刷

幼稚園における課外活動についての一考察

—鍵盤ハーモニカ指導の場合—

石 田 愛 子
安 藝 雅 美

幼稚園における課外活動についての一考察

ー鍵盤ハーモニカ指導の場合ー

石 田 愛 子
安 藝 雅 美

1. はじめに

芦屋大学附属幼稚園の教育方針は、「豊かな環境の中で、『あそび』を通して心とからだの健全な発達を促し、ひとりひとりの子どもの『個性』を目覚めさせていくこと。おともだちと生活していくなかで、知的関心を高め、協調していく心や、自分の気持ちを色々な形に表現していける能力を身につけ、豊かな感性を養うこと。」である。「豊かな環境」とは、物的環境だけではなく、人的な環境の豊かさでもある。児童教育学科の理科を担当する教員から大学の畑でさつま芋の苗植えを教わり、秋には「お芋掘り」を体験する。また、体育の専門教員による体育指導や、音楽の専門教員による鍵盤ハーモニカ指導などの諸活動は、大学の附属であることを活かした幼稚園の人的環境の豊かさといえる。子どもの興味関心はさまざまであり、色々な経験を通して、自分の得意を見つけることが一人一人の「個性」を目覚めさせることにつながっている。本園の課外活動も、保育時間の中で行う経験をより深めるものや、新しい知識や感性の習得として相応しく、教育方針に則ったものを取り入れている。

芦屋大学附属幼稚園では平成30年度、2019年2月から3月にかけて、年長クラスの希望者を対象に「鍵盤ハーモニカで遊ぼう！」と題する課外活動を行った。小学校入学を目前に控えた子どもたちの鍵盤ハーモニカへの関心は高く、楽器に触れるのは週一回45分×全5回の課外活動のみ、自宅持ち帰り練習一切なしでも、ドからソまでの階名唱と、その音域の順次進行を中心としたメロディー奏は十分できるようになることが明らかになった（詳細は芦屋大学論叢第71号 p.9-19 参照）。就学前の鍵盤ハーモニカ体験としては一定の成果があったと考えるが、週一回・希望者対象の課外活動を、日常の保育の延長に位置づけることができれば、子どもたちはいっそう楽器に親しむことができ、課外活動に参加していない子どもたちにも何らかのよい影響があるのではないかと、との思いから、令和元年度の実施にあたってはいくつかの見直しを行った。本稿では、令和元年度の指導の方法と変更点について効果や課題を検証し、幼稚園における望ましい課外活動のあり方について考察する。

2. 鍵盤ハーモニカ指導の意義

幼稚園で扱う楽器は、鈴やカスタネット、タンバリンなどの小物楽器を含め、打楽器が中心である。木琴や鉄琴はメロディーを演奏できるが、大型で数も限られるため、全員での活動は難しい。また、パチ（マレット）を用いてメロディーを演奏するのは高度な技術を要する。鍵盤ハーモニカは、保育者が弾いているピアノと同じ鍵盤で、同じようにメロディーが弾ける。ピアノの鍵盤は幼児にとっては大きくタッチも重いですが、鍵盤ハーモニカなら子どもの手でも弾きやすいサイズでタッチも軽い。何より、幼稚園で保育者が弾くピアノへの憧れや興味から、鍵盤ハーモニカに対する強い興味関心を持つ子どもが多いのである。

音楽遊びの中で特に鍵盤ハーモニカを取り入れる意義は、以下の点である。

- ①音楽という自己表現の中でメロディーを奏でる、声以外のものによる自己表現の一つの手段である。
- ②演奏や合奏によって、リズム・旋律・和声・その他副次的ないろいろな音楽の要素をよりよく理解することができ、表現する力が豊かに養える。
- ③演奏を体験することによって、楽器の性能、音色の組合せのおもしろさやよさなどを理解し、音楽の鑑賞能力をより養うことができる。
- ④音楽に関する理論や歴史などの知的な理解をするための素地となる。

3. 実施の概要と変更点

当初、年長クラスでは1学期から通年で保育時間内に鍵盤ハーモニカを導入することも検討されたが、保育活動の過密化と教員の過重負担を避けるため、平成31=令和元(2019)年度(以下、本年度)はこれを見送ることになった。平成30年度(以下、前年度)の課外活動が保護者から好評であったため、本年度もほぼ同じ時期に開催することになった。

実施の概要は次のとおりである。

「鍵盤ハーモニカで遊ぼう！」

- ・日程：2020年2月5・12・19・26日・3月4日(水)午後2時～3時、全5回(当初計画)
- ・担当：安藝(園長)、石田(大学)、年長クラス担任2名
- ・ねらい：①鍵盤ハーモニカに触れ、いろいろな音を出して楽しむ。
②鍵盤と音の並び方の規則性に気づき、階名唱に親しむ。
③みんなでうたったりリズム遊びをしたりして、音やリズムを合わせる楽しさを味わう。
- ・対象人数：11名(2020年2月4日時点)
- ・指導計画：表1参照

表1 指導計画

回	テーマ	ねらい
1	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカってなあに？ ・おとをだしてみよう ・ドのおとをみつけよう ・おかたづけのしかた 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の扱い方を知る。 ・「吹いて鳴らす」ことに慣れる。 ・鍵盤の並び方に気づく。 ・ドの音の位置がわかる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・よくきいてまねしよう ・3つのおとに、ちょうせん！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・高い音と低い音の位置関係に気づく。 ・旋律に合わせて単音でリズム奏する。 ・タンギングに慣れる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆびのたいそう ・5本のゆびで、ドレミファソ ・元気よく、しょんぼりと 	<ul style="list-style-type: none"> ・音階と階名を知る。 ・3音、5音の順次進行に慣れる。 ・吹き方による表情の変化に気づく。

4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4つのおとで、ふいてみよう ・ カエルがびよん！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 階名唱に慣れる。 ・ 指使いに気をつける。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ メロディーをふいてみよう ・ さいごはみんなで発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歌ったり吹いたりできるようになった曲を発表し、聴き合っ て楽しむ。

・ 使用備品・・・ピアノ，マグネットボード，CDプレーヤー

前年度同様，楽器は幼稚園の備品であるスズキ「メロディオン」を使用し，受講希望者は唄口とテキスト『メロディオンのほん』を各自購入することとしたが，本年度の実施にあたっては，主に次の3点について変更した。

- 1) 活動場所：年長クラスの保育室で行う。
- 2) 楽器の取扱い：課外活動期間中，保育室に常備する。保育時間中の使用も可とする。
- 3) 指導体制：クラス担任も参画する。

前年度の課外活動は別室で行っており，「園長先生と大学の先生が来る，鍵盤ハーモニカ教室」といった趣であった。場所が変わることで，子どもたちには少し緊張感を持たせる効果もあったが，本年度は「いつもの部屋で，担任の先生もいっしょに」参加できる形に変更した。これにより，期待できる教育効果として，①課外活動期間中，鍵盤ハーモニカが保育室に常備されることになるため，子どもたちは日常的に楽器に触れることができる，②担任の先生と一緒にいることは安心感を与え，子どもたちはよりリラックスして活動に参加することができる，③担任が活動（指導）内容を把握・共有できるため，保育時間内に鍵盤ハーモニカで遊ぶ子どもたちに一貫性のあるアドバイスができるようになる，④担任は子どもたちの日頃の状況や性格を把握しているので，座席を指定するなど，スムーズな活動を行うための配慮ができる，⑤運指やタンギングなど，個別指導が必要な場面で，担任が適宜サポートできる，⑥担任との情報交換により，子どもたちの実情を踏まえた指導計画の見直しが可能になる，などが挙げられる。

また，前年度は各回の活動を小学校の授業時間と同じ45分間としていたが，後片付けの時間が慌ただしくなることが多かったため，本年度は1時間に延長した。使用テキスト・教材についても前年度をほぼ踏襲しながら，選曲にあたっては子どもたちが覚えやすく，課外活動以外の時間にも自分たちで楽しめるもの，工夫できるものであることを重視し，指導の方法や手順については変更を加えた。主な活動内容と使用教材および指導のねらいを表2に示す。

表2 主な活動内容・使用教材

活動内容／《曲名》	出典	指導のねらい・工夫など
「はじまりのうた」 ¹⁾		鍵盤ハーモニカの時間を始める歌で雰囲気づくり
「チョキ, 1, 2, 3」		鍵盤の黒鍵の並び方の規則性に気づく
どんなおとがきこえてくるかな	A	音を聞いて、何に似ているか考えたり真似たりして楽しむ
《きゅうきゅうしゃ》	B	息のコントロールによる音の変化を楽しむ
「チョキ, ド」		鍵盤のドの位置を覚える
《どんぐりさんのおうち》	C	鍵盤のドとソの位置を覚える
《ドレミファソ》	B	ドから始まる音の並び方に親しむ
《ほたるこい》	A	ドとレによるオスティナート奏
したをつかっておとをだそう	A	タンギングとハーモニー
「もーいーかい, まーだだよ」	A	ドレミによる聴奏, タンギング
《チューリップ》	A	ドレミの順次進行の吹き歌い
「ゆびのたいそう」		指をほぐしながら, 指番号を覚える
《だいすきなパン》	B	ドレミの上行と下行
《おなかがすいた》	B	息のコントロールによる表情の変化を楽しむ
《どれみあそび》	A	階名模唱, 聴唱, 聴奏
《かえるのがっしょう》	B	ド～ファの上行下行, ポジション移動
「おわりのうた」 ²⁾		楽しかった気分と次回への期待を込めて, 歌って終了

出典：A＝メロディオンのほん³⁾／B＝マサさんの さあ！はじめよう鍵盤ハーモニカ⁴⁾／

C＝楽しい音楽遊び教材集⁵⁾

4. 実践と考察

第1回

前年度同様、鍵盤ハーモニカの音源をBGMに子どもたちを迎える。子どもたちは朝から鍵盤ハーモニカをととても楽しみにしていたとのこと。朝からのワクワク感をそのままに、でも初めての体験で少し緊張もしつつ、お行儀よくお話を聴き、積極的に参加できている。担任の先生（1名）が目配りして声かけして下さるので、授業の進行はとてもスムーズ。楽器がなかなか鳴りやまない時に「ちゃんとしようよー！」と声をかけられるお友だちもいて、さすがもうすぐ一年生である。本年度は、唄口と教科書（メロディオンのほん）は各自がロッカーにしまうことになっていて、持ち物管理のよい習慣づけができています。

座席は、1テーブルに2人ずつ向かい合って4人ずつ座らせるのを基本とし、ホワイトボードが見やすいように内側の席を一部空けるように配置。子どもたちの性格等を考慮し、担任の先生による指定席とした。

ピアノの周りに集まって「はじまりのうた」をみんなで歌ったあと、「けんばんさんのひみつはどこにある～」と歌いながら鍵盤の並び方に注目させる。黒鍵を順に鳴らしながら「チョキ, イチ, ニ, サン」と繰り返し、子どもたちも順に並んで、下から上まで「チョキ, イチ, ニ, サン」とできたら自分の席へ戻るよう促す。ピアノの鍵盤はサイズが大きいので、子どもの視点からは黒鍵の「チョキ」と「イチ, ニ, サン」

の見分けがつきにくいのか、全部「チョキ」になってしまう子もちらほら。ピアノで鳴らした黒鍵を「今度は鍵盤ハーモニカで鳴らしてみよう」。鍵盤ハーモニカのサイズであれば、どの子も黒鍵の2個と3個のかたまりを認識できていた。

鍵盤ハーモニカはピアノとちがって息を吹き込まないと鳴らないことに気づいた子どもたちに、吹いて鳴らす、ということは、息のコントロールで強弱の変化がつけられる、という面白さを伝えたいと思った。目の前の救急車、遠くを走る救急車、近づいてくる救急車、遠ざかる救急車、の実演。そして模倣。目の前のは「お誕生日のケーキのロウソクを一気に吹き消すみたいに」。遠くのは「そうっとシャボン玉を吹くみたいに」。子どもたち、けっこう上手にできている。ふつうに吹いていても、だんだん息がなくなるので自然に *decresc.*になるのも、鍵盤ハーモニカの持ち味である。

みんなが夢中になって「きゅうきゅうしゃのおと」を吹いているので、1人ずつ吹いてもらった。目の前の救急車、遠ざかる救急車、いろいろあって、よかった。子どもたちはできてもできなくても、先生を呼んで聴いてもらいたがる。3人の教員で対応できたことで、子どもたちの満足度も高かったと思われる。

《きゅうきゅうしゃ》のあと、「何の音？クイズ」。先生が後ろ向きで鳴らして、教科書 P.5-6 のイラストの中の何の音かあててもらった。車のブーブー、学校のチャイム、カッコウの鳴き声。その中で、やってみよう音として挙がったのが「小学校のチャイム」。黒鍵だけで、B-Ges-As-Des/Des-As-B-Ges。指の動きと鍵盤の位置をよーく見て、みんな上手に真似できていた！車のクラクションは、教科書では Des-Es の不協音が示されていたが、ある男の子が「こんなものもあるよ」と教えてくれたのが Ges-B の長3度。確かに！高級車にある、ハモるクラクション。子どもは耳がいい。

黒鍵ばかり使ったので、「白い鍵盤も使ってみようか！じゃあ、ドの音を探そう！」「チョキ、ド」で親指をおいて、5本の指を使って「ドレミファソ〜、ソファミレド〜」。指使いはいろいろあったけれど（短い親指からのスタートがしにくい子が何人か…でも2の指から始めると指が足りない…など）、そこはまた次回。

前年度の初回教材とした《ありさんのおはなし》（教科書 p.13-14）と《かっこう》については、本年度は割愛した。単音だけのリズム奏（ウン、タン、タン）は主旋律が必要で、1人では遊びにくいからである。自由遊びの時間に1人でも楽しめる教材を、今回は多く取り入れたいと考えている。

片付けの時間込みで60分設定としたので、慌ただしくなく最後まで丁寧にできたのはよかった。片付けのあと、「おわりのうた」を歌って、おしまい。

第2回

前回の課外活動翌日から子どもたちは日常的・積極的に保育室の鍵盤ハーモニカに触れるようになり、課外活動に参加していない子どもたちも影響されて、楽器に興味を示すようになっていたとのこと。今回から1名増えて、参加する子どもたちは12人になった。

前回同様、鍵盤ハーモニカの BGM で子どもたちを迎え、手洗いとトイレを済ませるよう声かけをする。「はじまりのうた」に続けて、どんぐりのイラストを見せて《どんぐりころころ》をみんなで歌い、《どんぐりさんのおうち》につなげる。「けんぱんのドの場所はどこだっけ？」と前回の復習。ホワイトボードの鍵盤図に「ここと、ここにもあるね！」とマグネットを貼り、低いドと高いド、それぞれを起点に「ドレミファソ〜、ソファミレド〜」。

いったん楽器を置いて、手をたたいて「まねっこあそび」。「タン、ウン、タン、ウン、タンタンタン」の「一、一、三拍子」を両手でたたいてみる。「ドのおとなりは？なんだろう？」「レ！」。ホワイトボードにマ

グネットを貼り、ドとレを確認。《ほたるこい》(教科書 p.15-16)に合わせてレとドの「一、一、三拍子」に挑戦。子どもたちは合格シールに大喜び!

「ド、レ、その次は?」「ミ!」。ドレミの3音を使って「もーいーかい」「まーだだよ」。「もーいーかい」は「ドーミーレ」,「まーだだよ」は「ドーミミレ」。指はそのまま、鍵盤を弾き直さなくても息だけで単音「ミ」と連打「ミミ」を吹き分けることができることを伝える⁶⁾。タンギングの技術を子どもたちに伝えるのはなかなか難しいが、手本を示すときに、担任の先生が「ほらほら、見てごらん!先生の指、押さえたまんまだよ!」などと注意喚起してくれることは、子どもたちの理解を促す上で非常に効果的であると思われる。

ドレミを覚えたので、最後に《チューリップ》(教科書 p.17)と「おわりのうた」を元気に歌って、おしまい。

日常的に楽器に触れているためか、前年度に比べて進歩が速い!第2回にして、ドの鍵盤の位置、低いドと高いドのありか(音の高さ)、タンギング、ドレミ3音の順次進行、まで進めることができた。今回は息のコントロールによる強弱の変化は扱わなかったため、次回《だいすきなパン》と《おながすいた》でやってみたい。また、次回は指の体操と、指番号についての説明も行う予定。

第3回

鍵盤ハーモニカの時間のオープニングとしてすっかりおなじみになった「はじまりのうた」を、きょうもみんなで元気に歌ってスタート。まず、《どんぐりさんのおうち》の1番と2番を歌って、ドとソの鍵盤の位置を復習。子どもたちをグループ分けして、ドまたはソの音でリズムを揃えて「こんにちはー(トゥー トウトゥー)」。ミの音も追加して、ドミソのハーモニーで「こんにちはー」。ピッタリ揃えるのはなかなか難しい。前回は引き続き、弾き直しせずに吹き方のコントロールでできる単音連打を試みるが、子どもたちの理解は半分程度…。タンギングの「トゥ」については、「ワン、トゥ、スリーのトゥ」という説明で理解できた様子。

今回は指番号の意識付け。「ゆびのたいそう」を歌いながら「1, 2, 3のおゆびでトントントン」したあと、「イチ、ニ、サン」と指を折って数え、その指で「ド、レ、ミ」と説明。《チューリップ》を階名で歌ってから、指番号を意識して吹いてみる。説明直後は指定の指で弾こうとするも、繰り返すうちに、やはり動きやすい指が出るようで、「ドレミ」を弾くのも、親指からが自然な子と、長い人差し指のほうが使いやすい子がいる。次も同じく3本の指で弾ける《だいすきなパン》。子どもたちは食べ物が出てくる歌が大好きで、すぐに歌えるようになる。歌詞と階名で歌ったあと、3の指からスタートすることに注意して吹いてみる。上行の「ドレミ」はできても、下行の「ミレド」はちょっと難しいようで、むしろ「ドレミレド」の往復のほうがつかみやすい様子。一番端の指=1の指からスタートするほうが、中央の3の指よりもわかりやすいということか。

ハ長調の《だいすきなパン》を平行移動したニ短調の《おながすいた》まで進む予定だったが、次回へ。きょうのところは、ドから始まる3音ないし5音の順次進行にとどめる。ドからソの範囲の階名模唱は上手にできる。でも階名を聴いて階名で真似して歌うことはできても、階名を聴いてその鍵盤を弾く(吹く)のはまだ難しい。これはゆっくり時間をかける必要がある。

「教科書〇ページひらいてくださいーい」というと、皆いそいそ。教科書以外のことをしたり、特に指示をしなかったりすると、「いま教科書、何ページ〜?」と質問する子も。子どもは教科書が好きなのかも。第2回までは快調にとぼしてきたが、少し到達度に差が出てきた3回目。次回、《だいすきなパン》《おながすいた》のあと、《かえるのがっしょう》に跳べるか??!

第4回

「はじまりのうた」のあと、子どもたちのスタンバイが早くなっている。すぐにも吹きたくてたまらない様子。いつもは返事をしてもらいが、きょうは出席をとるとき「お返事のかわりに好きな音を鳴らしてね!」。名前を呼ばれた子どもたちは、思い思いの音を自由に鳴らして、誰かのお返事をみんなが聴いて、笑ったり拍手したり。嬉しそうな子や得意げな子、ちょっと照れくさそうな子も。子どもたちは教科書を使うのが大好きなので、きょうは教科書に載っている《チューリップ》と《どれみあそび》から。ウォーミングアップできたところで、前回の《だいすきなパン》をもう一度。きょうは「ゆびのたいそう」で「2, 3, 4のおゆびでトントントン」してから、「みつつ」の指で「ファミレ」に挑戦。「だいすきなパンがなくなって、《おなががすいた》んだって!」「しょんぼり吹いてみるからね!」と範奏を聞かせるが、「しょんぼり」吹くよりも歌うほうが、子どもたちには受けていた…。ドからファの音まで弾けるようになったので、いよいよ《かえるのがっしょう》へ。「ドレミファミレド」の順次進行は難なくクリア。その部分だけ吹いて、あとは歌詞唱。「ミファソラソファミー」は未知の領域ながら、「1のおゆびのカエルが…、ピョン!」と言いながら、ドを弾いていた親指をミに移動してみせると、すぐに真似して弾ける子も。難しいのできる子も、難しくくてできない子も、「先生、先生〜!」と呼ぶので、今回は4人体制で対応できてよかった。ポジション移動はまだ難しい子が多く、全員で《かえるのがっしょう》を通して吹くには至らなかったが、《チューリップ》同様、元気よく吹きながら歌えて、楽しく終了。

5. 振り返りと総括

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、第4回をもって本年度の課外活動はやむなく打ち切りとなった。第5回まで実施できていれば、《かえるのがっしょう》でマスターした「ドレミファミレド」を「ドレミファミレド」に発展させ、教科書の《むっくりくまさん》まで進めて、子どもたちに「ここまでできた!」という達成感を味わう機会を与えることができたのではないかと思われる。また最終回に予定していた保護者参観と、保護者対象の事後アンケートを実施できなかった点も残念である。

2020年3月12日、本年度の取組みについての振り返りと総括を行った。以下は、外部講師（大学教員）から園長およびクラス担任への一問一答である。（文書による回答は原文のままである。）」

1) 子どもたちの課外授業への取り組みはいかがでしたか？

課外授業中やその前後の子どもたちの様子、できるようになったこと、難しかったこと等、担任の先生としてお気づきの点を教えてください。

担任の回答	園長の回答
<ul style="list-style-type: none"> ・水曜日になると朝から「きょう、ピアノあるよ!!」と言っていて、ピアノの授業に対して、とても前向きだったし、とても楽しみにしていました。 ・得意な子はみんなと一緒に演奏していたけど、苦手な子が最初につまずいてしまい、なかなか全体の演奏の時についていけなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の教科書を持つことは、小学校をイメージするため少し背伸びできた気持ちになる。それが子どもの意欲をそそる。 ・ピアノを習っていたり、上手な子どもは、鍵盤ハーモニカを使って色々な曲を鳴らして楽しんでいた。それに影響される子もいれば、苦手意識から、あまり興味を示さない子どももいた。

2) 日常の保育において、子どもたちはどのように鍵盤ハーモニカに取り組んでいたでしょうか（どのような時間帯に、何分程度、何人ぐらいの子どもが楽器に触れていたか…等）。

また、子どもたちが好んで吹いていた曲も教えてください。

担任の回答	園長の回答
<ul style="list-style-type: none"> ・登園後の朝の自由遊びの時に、多い時で5～6人ぐらいが弾いていました。昼食後の短い時間でも「ピアノ弾いていい？」と言ってきてくれる子もいました。 ・時間は、自由遊びの時間が様々だったのですが10～25分ぐらい弾いていました。 ・サイレンの音を弾くのが人気で、授業を受けている子が受けていない子に教えて弾いたり、幼稚園でうたった「小さな世界」や「いつでも誰かが」なども、一部の子が演奏していました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の自由時間から早速唄口を出して、「ピーポーピーポー」鳴らし始めた。皆が各々で楽しんで吹いている音が、2階の年長クラスから1階まで聞こえてきた。また、それを年中の子どもが覗きに来て見ている。「来年は自分もあれができる！」というまなざしで年長児の様子を見ているようであった。 ・鍵盤ハーモニカを使って遊んでいる姿は毎日見られた。

3) 一部の子どもが鍵盤ハーモニカの課外授業に参加することは、クラス全体にどのような影響があったと思われるか？

担任の回答	園長の回答
<ul style="list-style-type: none"> ・授業を受けていない子も、ピアノに興味を持ち、一緒に演奏している姿が見られて、とても良い刺激になったのではと感じました。 ・普段の生活の自由遊びの時からピアノに触れることができたので、身近にある楽器の一つとして子どもたちが楽しそうに触れていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由時間に興味をもって鍵盤ハーモニカに触れている子どもは本人に任せておいても上手になっていくが、授業時間にあまりうまくできなかった子どもに対して保育者がその子どもにゆっくりと教えるという機会はあまりなかったのではないかと考える。

4) 子どもたちの座席指定について、毎回ご配慮くださっていましたが、具体的にどのような点に留意し、どのような効果がみられたか、教えてください。

担任の回答	園長の回答
<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノなどを普段から触れている子とそうでない子を近くにして、子ども同士でも教え合えるようにしていた。 ・集中して話を聞ける子は先生から遠い席、周りが気になってしまい、なかなか話に集中できない子を先生の近くの席にしました。 ・得意な子が少し苦手で困っている子に教えて、一緒に弾いている姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・座席等を考えたことにより、担任にも課外授業に責任感が出て、一緒に指導を補助する意識ができたことが大きな利点であったと思う。

5) 今回の課外授業につきまして、感じたこと、来年度に向けてのご提案・ご要望など、自由にお願ひします。

担任の回答	園長の回答
<ul style="list-style-type: none"> ・短い期間でしたがありがとうございました。子どもたちもとても楽しそうに授業を受けていて、私もとても勉強になりました。 ・個人練習の後にすぐ全体での演奏だったので、苦手な子どもがどうしてもついていけない時があった。短い時間の中でたくさんのことを学べる機会だったので、何回かグループごとの発表などもあったら、もっと友だちの音も聞く機会が増えるのではと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・せっかくの機会だったので、保育の中でも鍵盤ハーモニカを使って音楽遊びが出来ればと思ったが、コロナの影響もあり、今回はその時間が取れなかった。課外授業の中での鍵盤ハーモニカ遊びに終わらせず、来年度は全員に唄口を買ってもらい、保育の中でも応用できればと思う。

6. おわりに

楽器の習得には毎日の練習が大切である。週に一度だけ楽器に触れるのと、日常的に楽器に親しむのとで習熟度に差がつくのはむしろ当然といえる。今回は全5回の予定を完遂できなかったため、最終的な到達度について前年度との比較はできないが、特に前半(第1～2回)の進度は前年度のペースを大きく上回った。第1回のあとに子どもたちが夢中になったのは、やはり「きゅうきゅうしゃ」であった。初めて鍵盤ハーモニカに触れる子どもたちにとっては、曲を吹けるようになることを目指す以前の段階として、救急車や車のクラクションなどの「音を自由に鳴らして遊ぶ」ことが何より楽しいものであることがわかる。そうした遊びを通して想像力を働かせ、工夫し、変化を聞き取り、呼吸や指のコントロールが巧みになる、というプロセスを辿ることができれば、子どもたちの鍵盤ハーモニカへの興味と意欲はいっそう高まるものと考えられる。

課外活動を担当する外部講師の立場としては、子どもたちの性格や状況を熟知した担任のサポートは大変心強く、スムーズな授業展開の大きな助けとなった。何より、子どもたちの表情に安心感とのびやかさがあることが最大のメリットであった。この課外活動はあくまでも鍵盤ハーモニカを楽しむことが主眼であり、担任の先生には次回までの補い指導をお願いすることはなく、子どもたちの主体性・積極性を引き出していただけよう、自由時間に「鍵盤ハーモニカ吹いてもいいよ!」とか「こないだ、どんなのやった?」とか声かけをしていただければ十分であることをお伝えした。外部講師とクラス担任が専門性を活かして連携することが、幼稚園における課外活動をより効果的なものにすると考えられる。

2年間、鍵盤ハーモニカを課外活動として取り入れてきた幼稚園としては、最終的には保育の中で担任が直接子どもたちに教え、音楽遊びの一つとして年間使うことができればとも考えるが、教員の中にはピアノを苦手としている者も少なくない。カスタネットや鈴のような楽器と違い、鍵盤ハーモニカの指導にあたっては、教師の音楽に対する想いや専門性、音楽の基本をどれだけ理解しているかによって、指導の内容や子どもへの影響にかなり大きな差が生じることが予想される。その点を考慮すると、毎年一定のレベルの指導内容を担保するには音楽専門の教師による指導が望ましい。今回の実践を通して、担任が環境設定やフォ

ローに回ることにより、一人一人の子ども観察も丁寧にでき、指導する教員への適切な補助ができたと考える。

課外活動は基本的に週1回である。保育中に行う楽器指導は、発表会等の目的に向けて毎日のように取り組ませる「練習」となることが多い。そうすると「遊び」ではなく、子どもたちにとっては、ともすると「やらされる」強制的なことになりかねない危うさがある。課外活動でも最終的には保護者への発表を行うが、そこには担任のプレッシャーや負担感はなく、子どもたちも「おかあさん！聞いててね！」と、のびのびとした感覚でお披露目ができる。こうしたゆとりも、課外活動のよさのひとつである。詰め込みで教えるのではなく、一週間の間隔があることによって子どもは期待をもってその日を待ち、意欲をもって主体的に当日の活動に参加できている様子がみられた。今回の、外部講師とクラス担任の連携による鍵盤ハーモニカの課外活動は、日常の保育の中にも自由に取り込まれたことで、幼稚園の教育方針である『『あそび』を通して感性を養うこと』が達成できたのではないかと考える。

注

- 1) 《ポンポンピアノ》（小林純一作詞・ドイツ曲）のメロディーを短縮・アレンジして、次のような歌詞（石田）をつけたものである。はじまりのうた「きょうから はじめよう けんばん ハーモニカ ドレミファ ソソソ みんなでふいたら たのしいな」。2回目以降は冒頭を「きょうもみんなであそぼうよ」に変えた。
- 2) 同上。歌詞は「きょうはこれで さようなら けんばん ハーモニカ ドレミファ ソソソ またらいしゅう ふきましよう」。
- 3) 鍵盤学習研究会 編著『メロディオンのほん』鈴木楽器製作所，2017。
- 4) 松田昌 著・演奏『マサさんの さあ！はじめよう鍵盤ハーモニカ～ピアノカ・鍵盤ハーモニカの指導者とビギナーのために～』ヤマハミュージックメディア，2015。
- 5) 教育研究グループ「音楽グルメの会」編『楽しい音楽遊び教材集』教育芸術社，Kinder 音楽グルメの会 Music Winter Seminar (2019.1.19) 配付資料。
- 6) 鍵盤ハーモニカは気鳴楽器であるため「吹く」ものであるが、本稿においては鍵盤の操作については「弾く」と表記している。
- 7) 「ピアノカ」はヤマハの商品名である。附属幼稚園で使用している楽器は鈴木の「メロディオン」であるが、鍵盤ハーモニカを指す一般名詞として「ピアノカ」が流布していることがうかがえる。

参考文献

- ・神原雅之・鈴木恵津子 編著『改訂 幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』教育芸術社，2018。
- ・石井玲子 編著『実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現』保育出版社，2009。
- ・谷村宏子・門脇早穂子「就学前教育としての鍵盤ハーモニカの導入の指導に関する一考察」関西学院大学リポジトリ，2012。
- ・山本美紀・筒井はる香「初等教育における鍵盤ハーモニカ学習の役割」奈良学園大学紀要，2016。
- ・平塚菜津美・島畑斉「鍵盤ハーモニカの運指の定着を目指した授業実践研究」『教育臨床総合研究 15 2016 研究』2016。
- ・奥田順也「小学校低学年を対象とする鍵盤ハーモニカの指導の今日的課題に関する一考察」玉川大学芸術学部研究紀要，2016。
- ・新井恵美「鍵盤ハーモニカの指導について一教則本の分析を通して一」宇都宮大学教育学研究紀要，2016。
- ・新井恵美「鍵盤ハーモニカの指導への試み一教員への研修を通して一」宇都宮大学教育学部教育実践紀要，2017。
- ・柏瀬 愛子「コダーイ・メソッドに基づく鍵盤ハーモニカ演奏のグループ指導」名古屋女子大学紀要(23)，187-198，1977-03-15。

